心をひとつに

秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

東海林太郎と甘粕大尉



1982年福岡市で

東海林太郎(1898～1972)は旧満洲・鉄嶺(てつれい、瀋陽北東)で図書館長をしていた時期があります。早稲田大学を卒業後の1923年(大正12年)9月1日、関東大震災が発生した、その日に満鉄(南満洲鉄道)に入社しました。満鉄の調査課に配属されましたが、そこでまとめた論文が急進的だとして鉄嶺に飛ばされました。

短編小説「あぢさゐ小路」を書いたのは作家の三田完さん(1956～)です。フィクションと断っていますが、少し筋を追って見ます。東海林は、この日、図書館の閲覧室でレコードコンサートを開こうとしていました。

60人程集まった会場に突然、「痛い！」という幼い子供の叫び声が響きます。若い男が「このガキ、後から来る奴がいるから椅子に手拭いを置いたのに、その上にすわりやがって、中国人は後ろに立ってろ！」と子供の腕をねじり上げています。子供のすぐ横に座っていた眼鏡の中年男性が立ち上がり若い男の手首をがっちり掴みました。中年男性は若い男より6，7寸背が低いのですが、軍人のような坊主刈りの頭で上下の揃った白麻の背広を着ています。よほどの力で手首を掴まれていると見え若い男の顔は、みるみる青ざめていきます。中年男性は、カんだ様子もなく、「わかったかね。こんな乱暴はするんじゃない。子供はこの国の未来を担う大切な宝だから」。

やがてコンサートが始まり、最後はリリ・レーマンの「アヴェ・マリア」を聞き終わると中年男性は涙を流していました。東海林が名刺を差し出すと、中年男性の名刺には肩書や住所もなく、甘粕正彦とありました。大震災直後に、大杉栄、伊藤野枝らを殺害した甘粕大尉でした。東海林は、この後、甘粕と食事を共にします。それから20年近く経た1940年(昭和15年)、既に満鉄を退社して歌手の道を歩み始めていた東海林と甘粕は東京のNHKスタジオで再会します。

2025年9月、伊藤野枝の親戚に当たる矢野寛治さん(77歳・福岡市在住)の講演がありました。

福岡市西区今宿の山中に野枝の墓に当たる長さ1.5m、幅・奥行共に70cmの自然石があります。野枝の実家跡から南に2キロほど入った所ですが、名前を記した銘板などはありません。野枝には前夫との2人を含めて男女合わせて7人の子供がいました。大杉との間には1歳3か月の四女ルイズを入れて4名の幼子です。野枝の大叔父で、頭山満の親戚・代準介が連れて、震災で寸断されている東海道線ではなく、中央東線で長野塩尻を経て名古屋、大阪、下関と3日もかけて博多に戻ります。墓の自然石は、その代準介が置きました。作家の松下竜一が「ルイズ父に貰いし名は」で四女ルイズの半生を描きました。ルイズ(1922～1996)は伊藤留意子から結婚で一時、王丸姓に変わります。「ルイズその旅立ち」「風よあらしよ」とルイズを題材に2本の映画も残っています。

大杉事件(1923年・大正12年9月16日夜)で軍法会議にかけられたのは、東京憲兵隊の甘粕正彦大尉を含めて5名です。作家の佐野眞一さん(1947～2022)は、2008年に出版した「乱心の曠野」で事件に関わって逮捕されたのは東京憲兵隊渋谷・麹町分隊長で大尉だった甘粕以外に4名の名前を挙げています。東京憲兵隊本部付き曹長の森慶次郎、伍長の平井利一、上等兵の本多重雄、同じく鴨志田安五郎です。同年12月8日の判決で平井、本多、鴨志田の3名は無罪、甘粕は懲役10年、森は同じく3年の判決で収監されますが、森は判決から1年5か月後に紀元節恩赦で仮出獄し、三重県大里村(現在は津市)の村長を戦後まで務めます。

佐野は「乱心の曠野」最終章、八十五年目の真実で、生前の森から思い出話を聞かされた森の甥の証言を書いています。
「大杉と野枝は自分（森曹長）が殺した。ただ子供は殺すなと言うたのに部下の上等兵が殺した。」という証言です。この上等兵は本多と鴨志田です。一方の甘粕は、判決から2年10か月後に出獄します。甘粕と陸軍士官学校で同期だった半田敏治氏の遺族から甘粕の弟、五郎さんに手紙が送られて来ました。手紙には、「甘粕は大杉殺害事件には全く関係ない。これは俺にだけ漏らしたのであって他には一切口外していない。甘粕の遺族にこのことを知らせよ。」というのが半田氏の遺言でした。甘粕は出獄後、フランスを経て満州に渡り満鉄などを経て満州映画協会の理事長に就任し、終戦で自決しました。

熊の実像に迫って50年

米田（まいた）一彦さんが熊と遭遇したのは3000回以上、命の危険を感じた接触は9回にも及びます。50年以上フィールドワークに徹して来た「熊」研究の第一人者です。
秋田県庁で鳥獣保護行政に携わる一方、熊に発信機を付けて追跡し、越冬している穴に頭を突っ込んで確認するなど「熊」生息数調査の基礎を築きました。環境庁（当時）の依頼で西日本の熊の生息状況を調べる為、1990年から広島に通い、やがて移住しました。
中国地方では集落に依存する「里熊」の被害がまん延し、熊を敵視する住民、保護を叫ぶ都市住民、苦慮する行政と三つ巴の渦中に飛び込みました。米田さんは、追跡用の発信器や保護用のドラム缶檻を大量に自作し熊を山に戻す「奥山放獣」を提唱し、注目を集めました。麻酔の吹き矢を使って猪の罠にかかった熊を助けたり、熊が侵入しないよう好物の柿の実を都市部の住民と一緒に摘果したりと地道な活動を続けています。市街地でも熊の行動を予測し被害を未然に防ぐ道があると説きます。不意の襲撃に心底震えたこともあるが、これが自分の天職だと話します。
1948年青森県十和田市生まれ、秋田大学教育学部卒業。秋田県庁生活環境部自然保護課勤務。1986年に退職し、フリーの「熊」研究家に。NPO法人日本ツキノワグマ研究所理事長。著書に『熊が人を襲うとき』『人狩り熊 十和利山熊襲撃事件 本州最大級の惨事はなぜ起きたのか』など。

白神山地もブナの実、大凶作

東北森林管理局が2025年11月6日に発表したブナの結実状況は、東北6県の内、福島を除いて写真の様に結実せず大凶作になっています。
18日（火曜日）午前5時半からNHKラジオ第一のマイあさ！に白神山地の自然アドバイザーを務める斎藤栄佐美（えさみ）さんが出演し、ブナの実が1個も見えないと嘆いていました。
去年が豊作だったから期待出来ないと思っていたそうですが、今年ほど食べ物が無い年は初めてだそうです。熊の出没に影響していると話されました。食べ物がないからカモシカを襲って食べるそうです。来年は2年続けて大凶作はないと思う。せめて「並」程度に育ってくれればと願っています。白神山地は、この日、気温零度、道路も白一色にうっすらと雪が積もりました。10月21日には紅葉のガイドをしたそうです。白神の木々は赤や黄色に色づき、守り神である藤里駒ヶ岳（標高1158m）の頂上に真っ白の雪帽子を被って紅葉とのコントラストに参加者は大喜びだったそうです。
斎藤さんは、秋田弁で「えがった、えがった、こでられね」と結ばれました。


冬眠中の熊（米田一彦さん撮影）

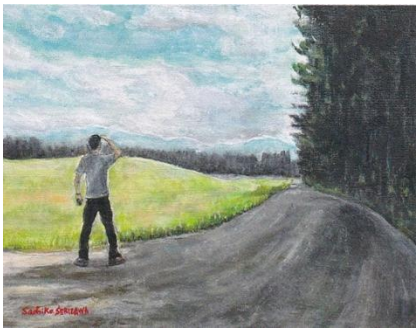


洋画家、芹沢幸子さんが銀座個展のDVDを制作



福岡・秋田県人会会員で洋画家の芹沢幸子さんが2025年4月28日から5月4日まで、東京銀座にあった新井画廊で開催した個展のDVDを制作しました。個展の標題は「-Mes souvenirs-我が追憶」。2024年に訪れた岩手県雫石市など国内の風景画の新作など23点を展示しました。

芹沢さんは福岡市中央区渡辺通の自宅兼アトリエ近くのライブハウスで出会ったバンド「ザ・ウォームガン」のミュージシャンと意気投合し、リーダーの権藤与志史（よしふみ）さんらが会場のオープニングに駆けつけてビートルズ・ナンバーをライブ演奏しました。芹沢さんは立教大学で心理学を学んだ後、30代半ばで洋画家を目指し武蔵野美術短大や九州産業大学大学院で絵画を専攻しました。数学者のご主人とパリで13年暮らしたこともあり、これまでの作品はフランスの風景画が中心でした。



芹沢さんが福岡・秋田県人会に入会されたのは、父親の三浦冨治郎さん（1903～1991）が秋田県大館市の出身だったからです。

三浦冨治郎さんは、旧制大館中学から旧制高校に当たる早稲田高等学院、更に早稲田大学に進学しました。大学時代は野球に打ち込み、卒業後は九州電力の前身、東邦電力に入社します。更に熊本電鉄にヘッドハンティングされ、熊本県内随一の進学校、県立熊本高校の野球部監督に就任します。

三浦監督は、1953年（昭和28年）と1955年（昭和30年）熊本高校を夏の甲子園に導きました。

野球部のグラウンドには、高さ130cm、幅70cmの石碑が建っています。石碑には三浦冨治郎監督の顔レリーフと共に「選手である前に熊高生」であれ、と監督の言葉が刻まれています。地元で熊本工業校と区別するため「くまたか」と呼ばれる熊本高校は、この後、春の選抜も含めて甲子園の土は踏んでいません。秋田から九州へ郷土の先輩たちは大きな足跡を残しています。

男鹿駅近くのラーメン屋が一風堂と提携進む



JR男鹿駅前にあるラーメン店「おがや」が福岡市中央区大名、発祥のラーメン・チェーン「一風堂」と提携を進めています。「一風堂」は1985年創業、力の源ホールディングスとして国内海外で400店以上ラーメン店を展開する企業グループです。創業者で川原成美会長（73歳）も新しい価値を創造することを企業の精神に掲げ、これまでも社会貢献や地域活性化を行っています。

一方、「おがや」は2021年から醸造所を中心に街づくりに取り組んでいます。

代表の岡住修兵さん（37歳）は北九州市出身です。酒造りに始まってコメ作りやレストラン、更にホテル運営も手掛けています。「おがや」のオリジナル看板メニューとして、両社が「男鹿塩ラーメン」を共同開発しました。

男鹿の名水・滝の頭の湧水で、秋田高原フードが育てたブランド鶏「高原比内地鶏」の鶏ガラで丁寧に出汁を取り、芳醇な味わいの諸井醸造の十年熟成ショッツルと男鹿の塩を使用した塩ラーメンです。付け合わせは、グループの「稲とアガベ」の麹を使用した塩麹漬燻製チャーシューです。

男鹿を中心とした食材の魅力が存分に詰まった「男鹿塩ラーメン」は、男鹿の魅力を味わう一杯になっています。

福岡で20年ぶりの秋田犬本部展、福岡・秋田県人会も運営補助で活躍



2025年12月7日（日）午前9時から福岡空港に近い福岡市博多区平尾公園の野球場で第152回秋田犬保存会本部展が開催されました。

福岡で本部展が開催されるのは20年ぶりです。この日は晴天に恵まれ、北は山形から鹿児島まで約150頭の秋田犬と関係者約300名が集まりました。秋田犬保存会中央ヨーロッパ支部会員でポーランド在住のズザンダ・シャデさんも秋田犬を連れて参加し、国際色も豊かになりました。

福岡・秋田県人会は今野正春会長を先頭に、大館市で地域おこしに参加し秋田犬「あこ」を連れて福岡に戻った会員の西山奈見さんや、秋田犬に会うため大館、東京に30回も通っている矢野有子さんなど延べ13人が前日の準備段階から運営補助に活躍しました。

運営補助は前日の30張りのテント設営に始まり、当日は駐車場案内、受付、さらに十能（じゅうのう・小さなスコップ）での審査会場清掃などを担いました。会場にはテレビ局も取材に訪れ、秋田犬を連れた家族連れなどで見物ゾーンも一杯になりました。本部展は、秋田犬保存会会長で総理補佐官を務める遠藤敬さんらの挨拶で始まり、幼犬、若犬、壮犬、成犬の審査を2段階で進みました。

会場では白い秋田犬の子犬を受け取って岐阜に戻るという方が嬉しそうに子犬を抱えていました。県人会は2日間、少しハードな運営補助でしたが、秋田犬の可愛らしい仕草に癒されていました。

在京秋田県人新春交歓会



1月15日夜、東京渋谷区のセルリアンタワー東急ホテルで首都圏在住の秋田県人の新春交歓会が開かれ、秋田県出身者や秋田県ゆかりの方など約280人が参加しました。

交歓会は秋田県と首都圏秋田県人会連合会の主催で、福岡・秋田県人会から今野正春会長も参加しました。

知事として初めて参加した鈴木健太知事は、ふるさと納税の寄付受け入れ強化やスポーツ振興への協力を要請し、皆さんの力を借りて明るい秋田を作っていくと述べました。

今野会長は長い行列を20分待って鈴木知事と名刺交換し福岡での県人会総会へも是非おいで下さいと県人会イベントへの、来賓としてのご出席を要請しました。参加者は秋田の酒で乾杯し郷土の話で盛り上がり、あっと言う間に終了時間が来て、お開きになったと言う事です。今野会長は読売新聞特別編集委員の橋本五郎さんらと記念写真に納まりました。

秋田県人沖縄会、新年会



2026年1月24日（土）夕方、秋田県人沖縄会の新年会が那覇市前島の秋田料理「花より」で開催されました。

那覇市のホテルで計画していましたが、参加者が少なく、毎月、模合を開催している「花より」に変更し、4名が集まりました。花よりの店主、畠山法子さんは男鹿市の出身ですが、故郷に戻る為、5月で閉店します。秋田県人沖縄会の宮城由美子会長は閉店まで毎月第4土曜日に模合を続けることにしています。

ここからは沖縄全国ふるさと会に寄せた畠山さんのコメントです。
『那覇にて飲食店を営業して26年余り。当初は「小料理・花より」。私が秋田出身とお客様が知ると、秋田と言えば稲庭うどんでしょ、きりたんぽ鍋でしょ、いぶりがっこでしょ、等々。いつの間にか「秋田料理・花より」になりました。お陰様で秋田県人会の方々、旅行や出張、転勤で沖縄を訪れる秋田人に沢山出会う事が出来ました。「秋田」には感謝しかありません。歳を重ね毎年帰省するようになり、ますます秋田が愛おしい。人口減だ、熊出没だと良くないニュースもあるけれど、いつまでも変わらずそこに「秋田」があって欲しいと切に願います。』
畠山さんはマラソンランナーとして数多く沖縄の道を走って来ました。これからは故郷・秋田を走ります。

福岡・秋田県人会、新年会



1月24日（土）17時半から福岡市博多区のJR博多駅に隣接するKITTE博多9階のイタリアンTANTOTANTOで2026年の福岡・秋田県人会、新年会が開催されました。
秋田県福岡事務所の羽沢勝己さんから秋田の酒、高清水の差し入れがありました。今回は初参加7名を含む19名が参加しました。
初参加には秋田の劇団わらび座の元役者、わたなべ・のぶこさんや山口県の山陽小野田市から見えた方もいました。自衛隊勤務の方、福祉関係の方と様々な職種の方が集まり、中には別の宴席で偶然知り合ったという方もいました。わらび座のわたなべさんは、わらび座の現状を説明した後、4月に福岡市で開催するロングラン公演のPRもされました。
新年会では理事の高橋通善さんの乾杯の音頭に続いて今野正春会長の年頭の挨拶がありました。また、会員の出欠と近況一覧が配られ、会場の他のお客さんに配慮して秋田県民歌の「さわり」の部分だけ、わらび座のわたなべさん達に歌って頂きました。
お開きは遠来組の常連で神戸市の三浦明宏さんの挨拶と博多一本絞めで締め括りました。今回は2次会の参加者が多く、初参加同士で実家や親戚が、ご近所だった事が判明するなど秋田弁で盛り上がりました。

そーはく、カフェライブ



福岡・秋田県人会、会員でギター弾き語り教室を主宰する伊藤和憲さんが11月15日（土）14時半と17時半からの2回、佐賀市松原のギャラリー喫茶室「蝙蝠」でカフェライブを開催しました。
小さな川に面した喫茶室には佐賀や福岡の秋田県人会会員、西田しのぶさん等3名を含む計40名のファンが訪れ、「そーはく」の弾き語りに聞き入りました。
「そーはく」名前の語源は秋田で過ごしていた頃、余りに顔色が白いので、友達から言われた顔面蒼白から取ったと紹介しました。
チューリップの楽曲「青春の影」などを伸びやかな歌声で披露しました。会場には1歳になった、そうはくの第一子（女の子）も顔を見せ、愛嬌を振りまいていました。
そーはくは、20歳から福岡県筑後市に住んでいます。この日は秋田の酒に因んだ歌や秋田市新屋の実家の猫にまつわる歌も軽妙な話と共に披露しました。

縄文遺跡群、沖ノ島関連遺産群、福岡フォーラム



縄文遺跡と沖ノ島を巡るフォーラムが2025年11月16日（日）13時から福岡市中央区天神のアクロス福岡で開催されました。

フォーラムは北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録から4周年、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録から8周年を記念したものです。

アクロス福岡、地下2階のイベントホールには約200名の市民が集まり、3人の専門家の講演などに耳を傾けました。専門家の一人、同志社大学文学部の水ノ江和同（かずとも）教授は北九州市門司区出身です。

水ノ江教授は講演の中で、「世界遺産への登録は文化財保護にとってゴールではなく通過点です。世界遺産に登録されても社会が変化する速度は速く、常に新しい発掘調査や考古学研究を行い最新の情報を発信することが大事です。」と訴えました。フォーラムでは子供たちを対象に縄文時代の銅鐸作りなどの実演も行われ、子供たちが目を輝かせながら作り方を体験していました。

劇団わらび座、2026年4月、シアターそらとうみ（福岡市東区香椎照葉）でロングラン公演



2026年4月11日から4月19日までの9日間、福岡市東区香椎照葉のシアター「そらとうみ」で秋田の劇団「わらび座」が計10回、公演します。

東北6大祭りの青森ねぶた、盛岡さんさ、山形花笠、仙台七夕、福島わらじ、そして秋田竿燈です。

「そらとうみ」シアターは386席。客席を太鼓席、提灯席、うちわ席で埋め尽くし、シアターは参加者、全員参加型の祭り空間になります。太鼓を鳴らし、提灯をあげ、うちわで踊る、子供から大人まで楽しめるイベントです。

なお、3月14日から22日まで東京の東急歌舞伎町タワー、シアターミラノ座で先行公演されます。

この公演は、企業版ふるさと納税を活用し、秋田県庁の助成を受けています。わらび座は、2026年4月から不動産のAPAMANグループからの資本提供を受け入れ、老朽化した施設の修繕や従業員の労働条件改善を進める方針です。

前後しますが、わらび座は2021年3月の民事再生開始決定を受けて同じAPAMANグループのシステムソフト社から既に支援を受け、経営を立て直してきました。現在は劇団事業を担うわらび座と、「あきた芸術村」を運営するあきた芸術村の2社体制で活動しています。

福岡

福岡・秋田県人会
4月25日（土）夕方、場所未定で定時総会

沖縄

秋田県人沖縄会
3月16日（月）午前9時半、
摩文仁の丘・平和公園、千秋の塔で戦没者追悼式
秋田県遺族連合会と共に参列

event



募集

会報へのご意見、ご感想、投稿をお願い致します。
宛先は、福岡・秋田県人会、中村靖、
メールアドレス：o-nakamura@mms.bbiq.jpへどうぞ